

食物学会誌 77 号に思う

—食物学会誌の価値について—

食物学会長・食物栄養学科長 川添 禎浩

京都女子大学食物学会誌のリニューアルお慶び申し上げます。本誌は、1956年に発刊されています。以来、77年間継続できたのは、本誌にかかわられた皆様のご努力とご支援によるものです。食物学会長・食物栄養学科長として心より感謝申し上げます。

今回、巻頭言として、食物学会誌の価値について考え、書いてみたいと思います。以下、具体的にどのような価値があるのか、研究業績、論文の内容、インターネット上での公開という観点から述べてみます。

食物学会誌は大学の紀要に分類されます。紀要の多くは査読がないと思いますが、食物学会誌では、原則2名の査読委員によって審査され採用された論文が掲載されます。査読付論文としての研究業績への寄与は大きいと思われます。また、京都女子大学大学院の博士論文は3編以上の論文が必要で、その中に本誌の論文を含めることができます。大学院生にとって本誌は重要なものです。

研究論文の多くは専門分野の既存の学術誌に投稿されます。当然、論文の内容はアカデミック性が重視されます。しかし、食物栄養学科の学問領域は食品から臨床まで広範囲であり、アカデミックな基礎からプラクティカルな応用まで多岐に渡ります。そのため、実用性を重視した研究などは学術誌によっては馴染まないこともあり、食物学会誌に投稿すれば、研究の成果を残していくことができます。論文の種類は、総説、原著、短報、調査報告、資料、その他に分類されていますので、内容に応じて研究の記録としても残すことができます。

食物学会誌に掲載された論文は、現在、図書館の京都女子大学学術情報リポジトリ（京女AIR）を通してインターネット上で公開されており、国内外から、過去から最新号までの論文へのアクセスが可能となっています。図書館の高頻度ダウンロード文献を調べてみると、例えば、かなり前に掲載された論文「沢ら、ほうれん草の調理科学的研究, 27, 31-41, 1972」が常にダウンロード数の上位になっています。このことから、研究の成果を、リポジトリを通じて社会に還元することができます。

以上、一部かもしれませんが食物学会誌の価値を述べてみました。今後もこの価値を継続し、さらに高めるために、引き続き食物学会誌への皆様のご協力をお願いしたいと思います。